

小売店舗のサービス向上とコスト削減に応える アルバの無線ネットワーク

なぜ小売店舗で無線化なのか？

店舗内における顧客サービスの向上の手段として、業務のモバイル化が強く求められています。モバイル端末の活用で、リアルタイムな在庫確認、お客様への的確な商品情報の提供、あるいはスタッフ間の効率的なコミュニケーションの成立により業務効率化がはかられ、それら全てが顧客サービスの向上へと繋がるからです。また最近では、POSシステムやハンディーターミナルといったデバイス側の無線化が一層進み、RFタグの活用等でも、無線インフラの必要性は、ますます高まっています。無線化の大きなメリットは、サービス品質向上と業務効率の大幅な向上ばかりではなく、フロア内でのネットワーク配線がなくなる事で、容易にフロア配置の変更が可能となり、それに伴うコストも大幅に削減が実現されます。更に、現在では、これらの無線インフラを活用した次なる顧客サービス向上への動きも始まっています。

セキュリティ強化の必要性とPCIDSS適用の動き

クレジットカード会員情報の盗難事件が、相次ぎ発生する中、クレジットカード情報および取引情報の安全な管理を目的に、クレジットカード業界におけるセキュリティ基準「PCI DSS (Payment Card Industry Data Security Standard)」が、2005年1月策定されました。

PCIDSSはクレジットカード情報を扱う全ての加盟店・決済代行事業者を対象としており、該当する全ての企業に対し準拠することを求めています。

要求項目は、ネットワークのセキュリティ、カード会員データの保護、システムの保守管理、セキュリティ・ポリシーの整備など、クレジットカードを取り扱う業務全般に及ぶ6項目、12の要件で構成されています。

米国 TJX社では、2007年5月に会員情報9,200万人分の流出事件が発覚し、クレジット会社に対し、カード再発行及び追跡調査費用として、\$40.9M(約41億円)を支払ったと報道され、企業の経営基盤を揺るがしかねない莫大な被害が、実際に起きています。この事件の1つの原因として在庫管理のスキヤナーのWEPキーが解読され、更に同セグメントがFirewallで区切られていなかった為に被害が拡大したとされています。

それらを契機に、米国ではPCIDSS対応システムの導入が先行して進んでいましたが、2008年10月に規定の一部内容改訂が加えられ、日本国内においても、一部のクレジットカード会社から加盟店に対して、PCIDSSへの対応期限を明示するなど、具体的な普及に向けた動きが加速してきました。この様な背景から、強固なセキュリティを持った無線インフラが強く求められています。

無線技術を活用した顧客サービスも向上が求められる一方で、会社の経営基盤を揺るがしかねない被害を被らない為の防衛策として、PCIDSS対応の真にセキュアな無線インフラの導入が、急務となってきています。



- 1.1.2: ワイヤレスLAN資産管理
- 1.2.3: ワイヤレスLAN Firewall
- 2.1.1: 初期設定使用禁止
- 2.2: 設定の標準化
- 4.1.1: WEPより強度な暗号
- 6.1: 最新パッチの適用
- 7.2: 権限ベースアクセス
- 9.1.3: 物理的なセキュリティ
- 10: アクセスのモニター
- 11.1: ワイヤレス侵入検知・防止

PCIDSS で規定されている無線に関するセキュリティ基準。WEPの使用制限も明確に規定されている。

PCIDSS基準を満たすアルバの無線インフラソリューション

有線ネットワークと同等のセキュリティ

- クライアントデバイスからコントローラの間を完全暗号化
- コントローラ内蔵のFirewallで、クレジットカード情報等機密性の高いデータネットワークのセグメント分割
- モニター機能で挙動の怪しい端末を高精度で検知し、自動的に隔離。

メンテナンスフリーの安定性

- 自動電波調整機能による動的な無線環境管理
- 自動最適化による運用コストの大幅削減



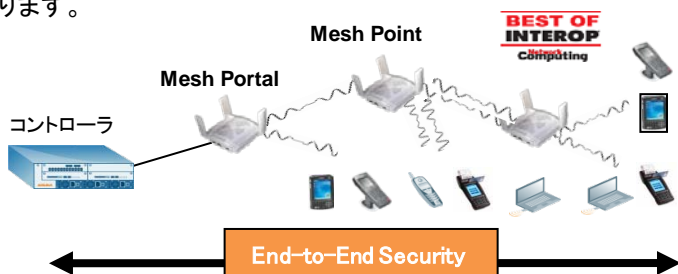
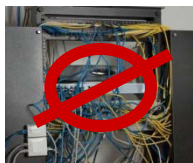
アルバの提供するセキュア無線インフライメージ 不正機器の自動隔離

顧客サービス向上の為の無線ネットワークの更なる活用

倉庫内の無線化

店舗内の無線による業務効率化と共に、倉庫、運送系においても、無線化によるメリットを大きく享受できます。出荷・入荷管理に無線デバイスを利用し、社内システムとモバイル連携させる事で、迅速に対応をする事は、要求の厳しい消費者ニーズを追従する上では、極めて重要なポイントとなっています。さらに倉庫内で、音声インフラも統合する事で、現場との大切なコミュニケーション機会を逸する事も回避されます。

また、倉庫内では、メッシュ技術を利用した無線ネットワークを活用する事で、雑然とする倉庫内でのネットワーク配線負荷を大幅に削減し、ダイナミックな変化にも適用も可能となります。



アルパの提供するメッシュ無線ネットワークにより、より自由なアクセス環境の構築が実現

ワイヤレスデジタルサイネージ

デジタルサイネージとは、店舗内に設置したディスプレイに、タイムリーに映像や情報をネット経由で配信するシステムです。そのデジタルサイネージの有効性に期待が高まっていますが、同時に無線化する事で、更にダイナミックな情報伝達が可能となり、お客様への直接的な情報提供も考えられます。当然ながら、無線化することで配線費用を削減効果も期待できます。



店舗内ビデオ監視

店舗内外の保安全管理を目的に、監視カメラの導入は、既に多くの小売店で進んでいます。同システムをネットワークインフラに統合することでコスト削減へ繋がります。更に同インフラを無線化する事で、同軸ケーブルの配線が不要となり、設置場所の拡大および、移動が容易となります。同時にケーブルリングコストの削減も実現可能となります。また、他拠点やモバイル端末から、常に映像監視も可能となりますので、保安全管理の質の向上にも寄与します。



PCIDSSコンプライアンス適用事例

展開概要

- 1800店舗
- 20ヶ所の大型倉庫

WLAN導入の理由

- 既存システムの販売中止
- PCIスタンダードへの準拠
- 新アプリケーションへの対応

Aruba導入の理由

- PCIスタンダード対応
- シンボル社、Intermac社デバイスの対応
- 既存NWの流用が可能
- 他社ソリューションと比較し1/3のコスト

Solution

- 1倉庫あたり、大型コントローラ2台＋AP400台
- 1店舗あたり、中型コントローラ＋4AP
- ファイアウォール＋無線侵入検知ソリューション



© 2009 Aruba Networks, Inc. All rights reserved. Aruba Networksは、Aruba Networks, Inc.の商標です。その他の商標または登録商標は各社の所有物です。仕様については、予告なく変更されることがあります。

■開発元
アルパネットワークス株式会社

〒102-0073 東京都千代田区九段北1-4-1 日本地所ブルックスビル6階
TEL. 03-3265-4900(代表) FAX. 03-3265-4901
<http://www.arubanetworks.co.jp>

■お問合せ・販売元
株式会社日立ソリューションズ 【営業統括本部】

東京都港区港南2-18-1 (JR品川イーストビル) TEL: 03-6718-5771
名古屋市西区牛島町6-1 (名古屋ルーセントタワー) TEL: 052-569-2176
大阪市浪速区難波中2-10-70 (パークスタワー) TEL: 06-66479-9407

Mail: aruba@hitachi-solutions.com <http://www.hitachi-solutions.co.jp/aruba/sp/>